

令和 8 年 度
宮崎国際大学 国際教養学部
一般選抜後期

試 験 問 題
【小 論 文】

受 験 番 号
氏 名

次の文章は、大学教授で精神科医でもある^{さいとうたまき} 斎藤 環 さんが、「コミュ力」と呼ばれる日本のコミュニケーションスキルの問題点について述べたものです。斎藤さんの意見を300字以内で要約しなさい。また、それを踏まえた上で、グローバル社会で必要とされるコミュニケーションの力とは、どのようなものだと思うか、あなたの考えを要約と合わせて600字以内で述べなさい。

「コミュ力」という言葉をみなさんも聞きますね。コミュニケーション能力、コミュニケーションスキルのことです。近年日本ではこの言葉が略されて「コミュ力」と言われるようになり、企業が学生を採用するときも学歴と同程度に「コミュ力」を評価するという風潮があります。これ、じつはとても困ったことだと思います。

「コミュ力」にはバリエーションがあって、「コミュ障」「非コミュ」などの派生語があります。この「コミュ力」はその人がどのように他者から評価されるかという問題に深く関わっています。思春期や青年期は人とつながっていたい時期と言われますが、現代は私がみなさんと同じ年齢くらいの頃よりも、つながることへの価値ははるかに高くなっている。なぜこれほどまでに「コミュニケーション」が尊重されすぎる社会になったのでしょうか。

大きな転換期は一九九五年、インターネット元年です。同時期に携帯電話が普及しはじめ、家庭用パソコン・インターネット・携帯電話というコミュニケーションの^{注1} インフラが整備されはじめる。これ以降、思春期・青年期のコミュニケーションのありようが劇的に変化しました。二〇〇〇年代に入ると、メールや電話だけでなく SNS と呼ばれる mixi や LINE、Twitter、Facebook など多様なサービスが始まり、さまざまな^{注2} レイヤーで若者がつながりあえる社会になり、コミュニケーションが流動化しました。

するとコミュニケーションの格差が生じます。コミュニケーションが流動化すると平等にその恩恵に^{あずか} 与ることができると思いがちですが、じつは逆なんです。コミュニケーションが苦手な SNS から遠ざかったり、メールをしない人もいれば、いっぽうで四六時中人とつながっていないと安心できない人もいます。後者はつながってさえいればそこそこハッピーな人なのかもしれません。

人間は、美味しいものを食べたり、読書や映画や音楽などの趣味が乏しくても、とりあえず人とつながってさえいればそこそこ幸せになれる生き物なのです。これは希望でもあります。いまはかつてないほどコミュニケーションインフラに恵まれた時代ですから、コミュ力の高い人のほうがハッピーなのは必然でしょう。このコミュニケーションインフラを使いこなせることは、仕事にもつながってゆきます。そうした背景があって、コミュ力が異常なまでに評価される状況になっているわけです。

日本では昔から、大事なことを決めるのは「人」ではなく「空気」だと言われます。誰が見ても合理的ではないことが「その場の空気がそうだったから仕方がない」と決定される。

有名な例だと第二次世界大戦の戦艦大和がそうです。あきらかに無謀な作戦で出撃したのは「会議の空気」がそうさせたからだと言山本七平さんが『「空気」の研究』という本の中で論じています。たいへん情けない話ですね。この「空気の支配」はおそらくみなさんのクラスや職場のなかにまだ残っています。誰かが主体的に決定するのではなく、その場の流れや勢いで決めてしまうことがありますか？ときにはこの空気の支配が良い方向に行くときもありますが、基本的には好ましいことではありません。誰もその決断に責任が取れないからです。お^{みこし}神輿をイメージするとわかりやすい。誰がお神輿を^{かつ}担いでいるかわからなくても、あるいは一人ぐらいいは神輿にぶらさがっていても、神輿じたいは進んでいきますよね。「共同責任は無責任」ということです。

残念ながら、コミュカ至上主義の下では空気に^{ほんろう}翻弄されやすい。というのも、われわれ日本人のいう「コミュカ」なるものが欧米でいうコミュニケーションスキルとはまったく別ものだからです。欧米でいうコミュニケーションスキルとは、感情的にならずに論理的に相手を説得する能力のことを指しますが、日本でいうコミュカは、空気を読む能力、人をいじる能力、笑いをとる能力のことです。

思春期・青年期のコミュカのロールモデル(模範にする人物)はお笑い芸人だと思います。芸人はキャラを立てて、笑いを取りに行き、人をいじって、空気を読む。この作法をわれわれは学び、それを教室空間で再現しているのです。ひとつの^{注3}モードとしてなら笑いを取るコミュカがあってもいいと思いますが、そのモードのみになると危険です。国際化がますます進んでいくなかではこうしたタイプのコミュカだけではやっていけません。日本のコミュカはその場の空気が共有される前提がないと役に立たないので、コミュカの真の価値を正確に理解して、モードを切り替える力を見つけてください。

(斎藤環「つながることと認められること」による・一部省略がある)

注1 インフラ … 人の生活や経済活動を支える基盤となるもの。

注2 レイヤー … 製品やサービスの機能の重なり。

注3 モード … 方法、様式。